

ジェロントロジーと保険学

駒澤大学大学院経営学研究科 梅田 篤史

1. 本報告の目的

保険学は、今日まで経済学、歴史学、政策論、経営学、マーケティング論、金融論、ファイナンス論、リスクマネジメント論、社会学、法学、数学、医学、工学などと広範囲に及ぶ様々な周辺分野との結びつきにより発展を遂げてきた。また、これらの周辺分野との結びつきによる拡大的发展とともに保険学の中心的研究課題である保険の本質(保険学説)も変化をしてきた。

本報告では、高齢社会の到来により注目されるジェロントロジー(老年学)理論の枠組みと高齢社会における保険の方向性を検討し、これらをもとに保険学の周辺分野としてのジェロントロジーが保険学に与える影響について考察を行う。

2. ジェロントロジーの理論と加齢リスク

ジェロントロジーとは老人および人間の老化を研究する学問である。そしてその研究領域は広く、生物学、医学、社会福祉、社会学、心理学、人口学、法律学、経済学、文化人類学、都市工学など様々な分野の学問や実践からの幅広い学問領域間の連携が必要とされる。そのためジェロントロジーは学際性の強い総合科学である。

ジェロントロジーの中心的なテーマは老化(aging)の発見とその原因の追及にあるとされており、老化とは成熟期後もしくは生殖期後に加齢とともに不可逆的に進行する多くの分子的、生理的および形態学的な衰退現象であり、それらは老化期で自己の身体に対して有害に働き、死亡率を増加させ、寿命を制限する要因のことである。

ジェロントロジーを研究していく視点として大きく四つの視点に分けられる。

第一は、高齢者の身体的特徴をはじめ、老化による身体機能低下の原因と治療方法、予防策、補填方法を研究する生物学的視点。第二は、高齢者の心と知能の変化についての研究する心理学的視点。第三は、個人と周囲の相互関係についての研究する社会心理学的視点。そして第四は社会学的視点であり、我々が年齢を重ねながら生活する社会の仕組みや、人口の高齢化が個人に及ぼす影響だけではなく、高齢化に対する社会的・経済的政策についての研

【創立 70 周年記念大会】

第 II セッション

報告要旨：梅田 篤史

究も行っている。この視点からのテーマには労働、経済、教育、医療、介護、社会保障など広範囲に及ぶ。

このようにジェロントロジーとは、人間の老化を理解するために必要な根拠となる老化の原因やメカニズムを中心とした老化の本質を追求し、現実の社会生活における老化および老年期に対する要求にこたえるための学問であるというのが今日の研究者の中でのおおよその共通理解である。

また、本報告における老化は、身体機能の衰退をおよぼすリスクであるだけでなく、様々な疾病や事故発生の可能性と損壊度を増大させるハザードとしての性質を持つところに特徴がある。

3. 今日の高齢社会と保険

今日の高齢社会は、急速な長寿化(2009年で男性75.59歳、女性86.44歳)と出生率の低下にともなう高齢人口の増加だけではなく、医療費の増加と公共の交通機関の運賃および光熱水道費等の公共料金の上昇による相対的な収入の減少による経済的問題も起こっている。

この他にも若年層が修学・就職を求めて都市部に移住してしまったり、夫婦と子供による家族構成をとる核家族化の一般化したりすることによって生ずる独居高齢者の増加と社会的孤立による孤独死は社会的問題となっており、家庭問題、健康問題、経済的問題による自殺の増加・詐欺被害・交通事故の件数も増加傾向にある。

このような現状の下では、保険による経済的保障は不可欠であり、高齢社会に適応する保険の開発が求められる。

本報告では、測定可能な偶然事象のみを対象とする保険が、老化という確実に避けることができないリスクおよび老化により引き起こされる様々なリスクを取り扱うための検討をはじめ、利便性の拡大のための葬儀や交通、買い物を含めた生活全般に必要な用具・施設の斡旋などを含めた現物(化)支給の必要性、生活上のアドバイスに関するサービスや様々なシルバービジネスとの結びつきなどについても検討を行い、最後にジェロントロジーを通じた保険の変化による保険学への影響について考察を行う予定である。